

退院後の“できる”を増やす調理訓練

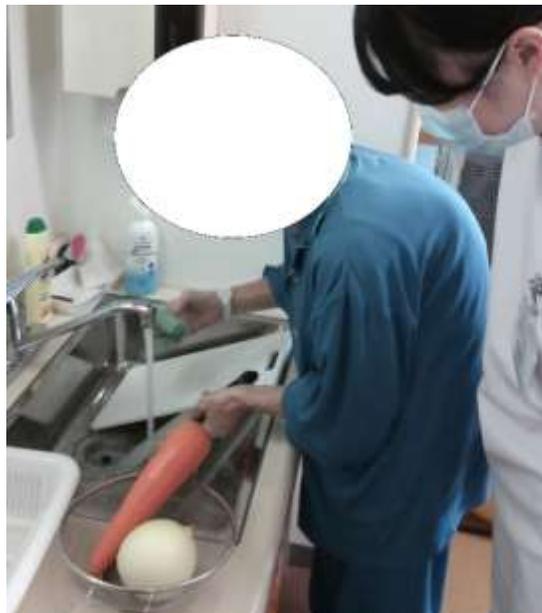
当院リハビリテーション課では、患者さんが退院後の生活に安心して戻れるよう、一人ひとりの目標に合わせた作業療法を行っています。

調理訓練は、その中でも日常生活へ直結する重要な取り組みです。

また「個別性を尊重し患者の QOL 向上に最善を尽くす」という当課の使命を体現する訓練でもあります。

当課には現在 5 名の作業療法士が在籍しており、互いに相談しながら訓練・支援を実施しています。一人ひとりの患者さんと深く関わることができる体制が整っています。

調理は、立位保持、上肢の操作、注意力、段取りなど、さまざまな機能を同時に使う活動です。今回の患者さんは退院後に「また自分で食事を作りたい」という希望があり、作業療法士とともに野菜の切削などの工程から練習を行いました。



使用する食材は、栄養課の協力を得て準備しています。多職種で患者さんの生活を支える体制が整っていることも、当院の強みです。完成した味噌汁を味わう瞬間には、達成感と笑顔が生まれ、自信の回復にもつながります。



調理訓練は、整形外科疾患だけでなく、脳血管疾患や内科疾患など、幅広い患者さんに実施しています。作業療法士は、安全面に配慮しながら、患者さん自身が主体的に活動できるよう支援を続けています。

スタッフの声

「できたが一つ増えると、その人の生活が確実に前に進むと感じます。その瞬間に立ち会えることが、作業療法士としてのやりがいです。」

写真は患者さんの同意を得て撮影しております。個人が特定されないよう配慮の上掲載しています。

